

北見武道通信

令和7年4月24日 00740号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】

合気道 柔よく剛を制す



こんにちは。このたび北見市武道館のスタッフになりました、細川と申します。高校の時には柔道部に入り、大学で合気道を始めました。

先日は久保田先生のもとで、武道館スタッフになってから初めてのお稽古に参加させていただきました。

技を掛け合っていると、館長の佐藤先生がいつの間にかスマホを構え、稽古風景を撮っていかれました。合気道は、少ない力で技をかけることができるので、社会人になってからも長く続けることができます。これからも、お稽古を重ねていきます！（写真:）技をかける尾崎愛倫さんと投げられる筆者（細川）

※来週は、スタッフ細川の短編小説「手帳」が掲載されますのでご期待ください。（佐藤）

事務所の花シリーズ「エンゴサク」

「エンゴサク」は山のわき道などによく見る花です。北見市端野の山には葉の違い、花の濃淡があるのがたくさん見られます。5月連休頃見学会があり、見応えがあるので楽しみです。（渋谷）

連載「武道宝鑑」第1弾 野間清治 <武道の徳><武道の徳>11-②

試みに竹刀を執って打振ってみる。手も足も、我が思うままに動かない。肩も腰も我が思う様にならない。我が手足、我が五体は、我が思いのまま自由自在に働かすことが出来るはずであると誰も思うであろうが、実際にやって見ると、却々思う通りにはならない。ましてや玄妙神速、円滑無礙、思いのままに所作する事などは、どうしても、容易に出来るものではない。それなら我が四肢五体を我がものとして、自由自在に働かしめる為には何をすればよいのか、第一も練習、第二も練習、第三も亦練習である。又そこまで行かねば、我がものであって、実は我がものではないのだと気づくであろう。一刀を打下すにしても、右の手は右の手として、力を入れるべき箇所、入る可らだる箇所、力を入れるべき瞬間、力を抜くべき機会等、それらが些の凝滞なく、自然に行われねばならない。左手も同様、まことに自由に、まことに自然に活動せねばならない。右足は右足として最善を盡し、左足は左足として最善を行い、腰は腰として、肩は肩として、全身それぞれが最善をいたさなければならない。しかし・・・つづく

